

刑法事例の歩き方

——判例を地図に

嶋矢貴之 = 小池信太郎 = 鎮目征樹 = 佐藤拓磨

担当編集から

装いを新たにした法学教室ライブラリ第1弾は、本誌でご好評いただいた刑法の講座連載の書籍化です。

「教科書や判例をたくさん読んで、授業も真面目に受けて、問題演習もやったけれど、いざ試験に臨んだら思いの外答案の評価が低かった」という悩みを持つ学習者は、少なくないかと思います。そんな方に、本書は自信を持ってお薦めできる一冊です。

本書の特徴は何と言っても「事例分析の前提」、「判例と学説の現状」、「事例へのあてはめ」と整理された各講(章)の構成です。冒頭の「CASE」から出発し、事例問題を解くときの思考の流れに沿って、躓きがちなポイントや見落としやすい論点を確認することができます。より学びを深めたいという方は、書籍化にあたり加わった「司法試験の出題動向等」、「Learning Links」も役立てていただければ幸いです。

刑法事例という森を「迷わずに」進むための「地図」として、ぜひ本書をご活用ください。(竹)

Point

執筆者による座談会(本書PART 3)も必読です!

PART 1 総論

- 第1講 不作為犯
- 第2講 因果関係
- 第3講 正当防衛
- 第4講 過剰防衛
- 第5講 共同正犯の基本成立要件
——「共謀」の成否
- 第6講 共犯関係の解消
- 第7講 承継的共同正犯
- 第8講 実行の着手、早すぎた構成要件実現
- 第9講 不能犯、だまされたふり作戦
- 第10講 間接正犯と共同正犯
- 第11講 不作為と共犯

PART 2 各論

- 補講 各論の事例問題対応について
- 第12講 共謀の射程と財産犯序
- 第13講 強盗致死傷罪
- 第14講 事後強盗罪
- 第15講 2項犯罪——強盗利得罪を中心に
- 第16講 窃盗罪と詐欺罪の区別と符合
- 第17講 窃盗罪における不法領得の意思
- 第18講 文書偽造と詐欺罪における
「財産上の損害」
- 第19講 銀行預金と財産犯
- 第20講 横領罪

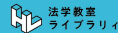
PART 3 座談会——答案作成に向けた学習のポイント

刑法事例の歩き方

——判例を地図に

嶋矢貴之 / 小池信太郎
鎮目征樹 / 佐藤拓磨

Companion to Criminal Law Cases
SHIMAYA Takayuki / KOIKE Shintaro
SHIZUME Masaki / SATO Takuma



刑法事例は、もう迷わない。

法学教室の人気連載を、ブラッシュアップ＆
「司法試験での出題動向」欄を新設して書籍化。
基本概念・判例のポイント・あてはめを学びながら試験へ備えよう。



レベル	用途	対象
中級	学習	学部 LS

2023年12月発売 / 554頁 / 定価4290円(税込)
A5判 / 並製



BOOK INFORMATION

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

